

2021.8.5

# 5月から製材事業堅調

## 受注断らない姿勢貫く

吉本

# 上 信 越 版



製材・ラミナ生産の岩泉事業所

吉本（長野県南佐久郡、由井正隆社長）は、岩泉事業所（岩手県岩泉町）で製材と集成材ラミナを生産している。ウッドショックの影響で5月から受注が急増しており、安定的な生産体制を続けるためにも丸太仕入れに力を入れている。製品受注については、供給量や納期は希望どおりとはいかないものの、一社も断ることなく製品を供給している。

同社は1887年に木炭問屋「与志本商店」として開業し、会社組織に変わって木炭を更替して木炭や鉄道用枕木、杭丸太などの取引へ広がっていた。1910年代から山林事業も展開。現在、丸太在庫は3カ月分を確保するが、

在では全国に約6000haの森林を所有・管理しており、岩手県内の社有林はFSC認証を取得している。

丸太価格の上昇もあって、社有林などからの伐出を含めて平均単価の抑制に努めている。丸太在庫量は最低でも1000立方尺の常時確保に動いている。新規を含め、製材・ラミナの注文は現在でもおろろ盛だが、同社では一社も断らない営業姿勢を徹底している。もちろん顧客の希望どおりの数量や納期で生産・供給できないものもあるが、必要としている量を部分的にでも供給したり、納品時間をもらったりして対応しているという。

岩泉事業所では月間約400立方尺の丸太を投入し、同1705180立方尺の製材・ラミナを生産している。樹種はほぼカラ松で、製品比率は集成材ラミナが約8割、残りが建築（畜舎や豚舎の柱や梁など）向けだ。素材生産・販売はカラ松を筆頭に引き合いはおろ盛だったが、製材事業は苦戦続きたった。ただし、5月以降は生産能力を上回る受注で、丸太在庫を切らさないように受注消化に努めている。